

新規わき芽抑制剤の処理法

福島県たばこ試験場
平成17年 成績概要
分類コード06-01-99000000

部門名 特用作物－タバコ－その他
担当者 吉田辰雄

I 新技術の解説

1 要旨

- (1)新規抑制剤(ブルーリボン、イエローリボン)は2剤とも旧抑制剤(エキガゾール、コンタクト) とほぼ同等のわき芽抑制効果がある。
- (2)新規抑制剤は、空洞病菌の侵入要因となる葉害が生じにくい。
- (3)無処理では、中葉位から上葉位、下葉位にかけて緩やかに褪色するが、抑制剤では無処理 の褪色傾向とは異なり、褪色は緩慢で葉位における一定の規則性はみられない。
- (4)新規抑制剤は旧抑制剤よりやや品質が低下するが、収穫が早いほど熟度、色沢、組織、葉肉 とともに良好でる。
- (5)ブルーリボン、イエローリボンの散布は、1. 4倍希釈、1回散布、株当たり15ml散布体系で 旧抑制剤と同等に抑制できる(タバコの生育を斉一に栽培管理し、適期に散布することが前提)。

2 期待される効果

空洞病の感染が低減されることから、生産性が安定する。

3 適用範囲

県内葉たばこ栽培地域

4 普及上の留意点

薬剤効果を高めるには、タバコの生育を斉一に栽培管理し、適期に散布することが必要である。

II 具体的データ等



写真1 旧抑制剤(コンタクト)による
葉害(葉焼け、葉巻き)



写真2 旧抑制剤(エキガゾール)による
葉害(縮縮様、葉巻き)

表1 幹刈時のわき芽発生量

区	わき芽数		わき芽重	
	2002年	2004年	2002年	2004年
	本/株	本/株	g/株	g/株
ブルーリボン	1.6	0.7	123.4	0.5
イエローリボン	1.8	1.1	103.1	2.0
エキガゾール	2.0	0.3	131.1	0.2
コンタクト	2.3	0.8	120.9	2.6
無処理	9.4	6.7	257.1	497.3

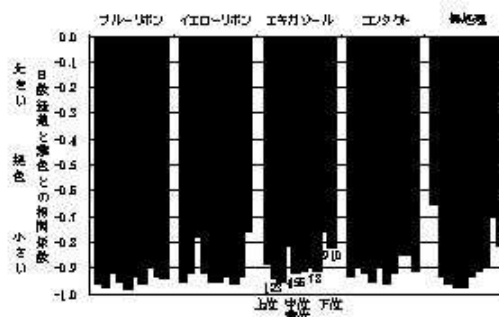


図1 日数経過と葉色との関係

注1) 2002年データ。幹刈10葉位(図中数字は1～10葉位)を計測。

注2) 7月20日から8月25日までの葉色を7回計測し、日数経過と葉色(カラスケール)の相関係数で褪色程度を示す。

表2 処理法とタバコの品質

処理	熟度	色沢	組織	葉肉	処理	熟度	色沢	組織	葉肉
ブルーリボン	1.50*	2.43	1.61**	4.19	15 ml	1.61	2.28	1.83	4.22
イエローリボン	1.78	2.28	2.04	4.26	20 ml	1.67	2.43	1.81	4.22
エキガソー	2.33	3.00	2.33	5.00	1回	1.67	2.43	1.81	4.22
コンタクト	2.00	3.00	2.00	5.00	2回	1.61	2.28	1.83	4.22
無処理	4.00	4.00	3.00	5.00	35日	1.89*	2.53**	2.14	4.72**
基準希釈	1.61	2.56**	1.75	4.33	40日	1.86	2.56	2.11	4.44
1.2倍希釈	1.64	2.47	1.69	4.11	45日	1.17	1.97	1.22**	3.50
1.4倍希釈	1.67	2.03	2.03	5.00					

注1) 2004年データ。

2) 基準希釈: ブルーリボン100倍、イエローリボン50倍。心止時に3cm以上のわき芽は除去し、その後は放任とした。

3) コンタクト: 処理量は1回目処理15ml、2回目～4回目20ml(4回処理は日本葉たばこ技術開発協会委託試験実施要綱)。

4) *: 5%有意、*: 1%有意。

Ⅲ その他

1 執筆者

吉田辰雄

2 主な参考文献・資料

- (1) 福島県たばこ試験場研究資料(平成17年3月刊)
- (2) 福島県たばこ試験場成績概要(平成13～17年度)